

わがまち瀬谷

第60号 (2018年1月1日発行)

編集・発行 せや・ガイドの会 共催 瀬谷区役所



瀬谷駅夜景の富士

瀬谷の魅どころ

路傍の石仏VI・記念碑

瀬谷にも多くの記念碑が建てられている。今回はそれらを取り上げてみた。

若宮八幡宮の移転遷宮記念碑。
碑文には概略次の事が記されている。「當八幡宮は瀬谷町五メ目、上瀬谷、竹村、中屋敷の鎮守として古来瀬谷町 8363 番地に奉斎されていたものであるが、東名高速の建設の実施のため移転の止むなきに至り協議の上、當地の同面積の敷地を確保し、昭和 43 年 3 月竣工し同年 4 月 14 日遷宮を執行した…略…日本の表通りを行き交う全てのものの上に、大いなる御神徳を願いつつ、此の記念碑を建立するものである。昭和 43 年 4 月吉日 氏子中」とある。話によれば約 50 年先の東名の向こう側の地にあったのを、解体することなくコロ引き移転で移動したと云われる。なお、青森の弘前城も 2015 年約 23 年先の家移動し石垣の修理に入っている。



若宮八幡移転記念碑

妙光寺「力士荒磯記念碑」

鐘楼に面してあり側面には「力士荒磯事伊東松五郎、明治 27~8 年の戦役に於いて近衛師団管理部担夫小頭となり、師団に随ひ遼東半島に航し尋ね臺灣島に転じ、沓寒炎熱を冒し終始労働純く其役を盡したるを賞す。明治 29 年 1 月 4 日近衛師団司令部」とある。この力士荒磯は、上瀬谷町の出で三役力士を張り、引退後も長く検査役を勤め、大いに角界に活躍した人と云われる。日清戦争に際し力持ちの力士に目をつけた軍部は、弾薬、食糧などの運搬に力士群の活動を委嘱したのか、荒磯は小頭として大に活躍し、この碑はその功績表彰



左綱五郎碑・右荒磯碑

に建てられた。

左の遠藤綱五郎碑の文は概略次のようなことが刻されている。瀬谷村本郷の遠藤綱五郎氏は補充兵で応召し明治 37 年 8 月 9 日入営、従軍戦地に赴き旅順攻撃に参戦、惜しくも同 11 月 27 日帰らぬ人となった。当年 23 才。その功に報いんと遺族が明治 41 年この碑を建立した。

妙光寺日蓮一泊記念碑、入り口に南無妙法蓮華經の碑がある。側面に「弘安 5 年 9 月 17 日高祖日蓮大聖人御一泊の靈地」と記されている。弘安 5 年 (1282) 9 月 8 日、病身の日蓮は、身延山を出て湯治のために常陸 (茨城県) へ向かう途中、9 月 17 日五貫目の鈴木さんの案内で妙光寺に一泊し、この縁で妙光寺は日蓮宗になったと云われる。日蓮は翌 18 日池上宗仲邸に到着、湯治には行けず 10 月 13 日この地で没した。



日蓮一泊碑

竹村町町内会館の南側の大六天が祀られているところに、次の記念碑が建てられている。

「昭和 16 年海軍補給部倉庫設置のため、瀬谷町北部五町内と川井町にまたがって買収された土地は総面積二百二十町歩、昭和 20 年終戦と共にこの地は占領米軍の駐屯するところとなったが、後撤退し昭和 22 年農地改革の発令と共に国営開拓地となり、関係町内農民によって二回に亘り林野 85 町歩の開墾が進められたが、昭和 26 年米軍通信隊設置のための再接収で事態は暗転、十余年に及ぶ接渉を経て漸く施設外地域の耕作権を確保し開墾費及び保償料の支払を得た。ここに開発費の一部をもって、公会堂の移築修理及び火の見櫓の建設を遂げ、竹村町内分収支精算処理を終わるに当たり、碑を建てこれを記念する。昭和 34 年瀬谷接收地対策委員会」。なお参考に、昭和 26 年 (1951) は朝鮮戦争勃発翌年で、28 年 7 月休戦協定となる。



竹村・記念碑

参考・横浜瀬谷の歴史 外

(井嶋記)